

# 考動Challenge

邑知小4年  
学年通信 No.15  
R2.8.4 (火)  
発行者 酒井 伸大

## 今こそ思いをカタチに伝え、つながろう！(お礼の手紙)

7月30日(木)、31日(金)は、子ども達の思いを二つのカタチにして伝える日となりました。

一つ目は、社会科見学で訪れたクリンクルはくいのみなさまへのメッセージです。4年生は、学習した『水のゆくえ』とつなげながら、ごみのゆくえを3つの視点【出し方】【分け方】【減らし方】から情報を集め、疑問を質問シートにまとめて、この日に伝えたのでした。

「ごみも水と同じようにめぐるの?」「分別しないと困ることは?」など、子ども達は解決したい疑問を伝えました。その一つ一つの質問にていねいに答えてくださり、子ども達から驚きと感激の声が上がりました。中でも「ここで働く職員は、みなさんが出したごみを私たちが命をかけて、分別していることを忘れないでほしい」という一言が胸にささったようでした。そんなクリンクルのみなさまへの感謝と今後の決意を、メッセージにたくして伝えました。



ゴミの分け方を間違うと大変なことになる分かったね♪



出したごみをクレーンでつりあげる。その量にビックリ!



見学で疑問、質問が次々と…。大事なことはメモで情報収集!

二つ目は、羽咋高校演劇部のみなさまへの手紙です。羽咋高校演劇部の3年生が羽咋市内の小中学校に交通安全の啓発CDを送ってくださり、7月20日(月)1学期終業式の日、給食時間に聴かせてもらいました。受験勉強中で忙しい中、小中学生の安全を願い、作ってくれたのだと伝えると、「手紙を書きたい!」という声はすぐに上がりました。そして、7月30日(木)羽咋高校へお電話をし、翌31日(金)4年生が書いたお礼の手紙を持っていきました。羽咋高校の南教頭先生、演劇部の山口先生、3年生の部員3名が玄関で出迎えてくださいました。

4年生の手紙を手を取った演劇部の3年生の声を紹介します。

「高校生でも、なかなかこんなすてきな手紙は書けないと思います」「(CDを)作ったけど、本当に(小中学校で)流されたのか、(思いが)伝わったのか不安でした」「でも、この手紙を読むと、CDを作ってよかったと心から思えました」

今年は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、高校部活動の集大成である総合体育祭・総合文化祭(インターハイ)が中止となりました。羽咋高校演劇部の3年生も、部活動の成果をじゅうぶんに発揮できないまま、この夏を迎えていたのでした。だから、邑知小4年生のみなさんの手紙に、とても感激していらっしやいました。

このように、よいことを続けること(継続)、思いをカタチにして、だれかを幸せにすること(繋がり)、だれかのために自分に何ができるか考えること(創造性)。本校の学校教育目標と4年学級通信「考動」にもそんな願いがこめられています。

例年と違うこの夏休みも、自分の思いをカタチにして伝える、すてきな夏にしてくださいね。



4年生が書いた手紙一枚一枚に目を通し、感想を交流している演劇部の3年生



邑知小4年生へメッセージ動画をいただきました。メッセージは、次の登校日の日に伝えますね♪